

平成30年度地方創生推進交付金事業
なかい戦略みらい会議及び議会の効果検証

◎ なかい戦略みらい会議

【全般】

- フェイスブックで情報発信を行うのであれば、フォロワー数や「いいね」の数などを参考に、どのような反応があるかを年1回でもよいので把握し、分析が必要。
- スポーツ、ブランド、未病といったものを横断的にやっていった方が、プロジェクトの目的に合致するのではないかな。
- イベント時に託児を用意すると参加者が増えるのではないかな。また、近隣自治体と連携して協力し合うとよいのではないかな。
- 「里都まち」という言葉を広めていただきたい。
- 各地区の会議に自治体職員が必ず出席して、住民の意見を吸い上げている事例もある。そのように住民の意見を吸い上げる仕組みを工夫するとよい。

【ブランド】

- ブランド認証品に対する購入者の反応を販売数から把握するべき。
- ブランド認証品はふるさと納税の返礼品にするべき。
- テルモでのブランド品販売が一つの販路拡大になった。このような取組みをきっかけに販路を拡張する手もあるのではないかな。

【移住（空き家）】

- 移住に関するブース出展を行う上では、空き家や住宅補助、農地の情報などを整理して、移住検討者が食いつく情報の出し方が必要。
- 空き家を活用した体験入居を行ったらどうか。一緒に農業を体験できるとよりよい。また、農家体験を学校単位で受け入れるという方法もある。

【スポーツ】

- 自転車ショップの方たちと連携してイベントを開催するなど、もっと自転車に注目した地域活性化を図ってもよいのではないかな。自転車に関するイベントを大きな大会とは別で少しやっていると面白いのではないかな。
- 総合型地域スポーツクラブについて、メニューを多くし過ぎるとうまくいかない。派手にやるのではなく地味にやる。行政が負担せずに自走化していくためにも、やる気のある人にやってもらうべき。
- 総合型地域スポーツクラブの種目について、ゼロから人を集めるのは大変なので、パークゴルフのように既に多くの人がやっている種目から始めるのもよい。つまらないものにするとう長続きしない。堅苦しくやらない方がよい。
- 近隣の小学生が中央公園に来て、足腰を鍛えるために山登り等を行うことが、総合型地域スポーツクラブの活動に繋がるのではないかな。
- 縦割りによりやりにくい状況を総合型地域スポーツクラブの活動により崩せると非常によい。単体でバラバラにやっていたものがまとまって団体になるという形になるとよい。
- 総合型地域スポーツクラブの原点は未病。クラブと未病は本来はセットであるので、役場の中でもセットでやっていけるとよい。

◎ 議会

- KPIとして「なかい里都まちCAFÉ事業収入」を設定しているが、売上だけではなく利益が出ているのかという点も確認していくべきである。